



義農大賞

interview



特定非営利活動法人 e ワーク愛媛
代表 難波江任さん

新居浜市を中心に、働くことに困難を抱えている若者の自立支援やフードバンク事業など、さまざまな分野での活動を20年以上継続している。

— 義農大賞を受賞した感想は？

身に余る光栄です。大変ありがたく思っています。今までの活動を認めてもらえたことがとてもうれしいです。

— どのような活動をしていますか？

平成15年から、ニートや引きこもりの若者への支援を始めました。現在は、働くことに困難を抱える若者などを対象とした宿泊・通所型支援とアウトリーチ（訪問支援）を併用して、自立支援を行っています。また、このような困難を抱える若者の背景にある貧困問題にアプローチし、社会体験の場を創出することを目的に、平成24年から県内初のフードバンク事業を開始しています。集まった食品は、県下全域のこども食堂などに提供し、活用されています。

— 今後の目標は？

活動を続けられているのは、協力してくれる皆さんのおかげ。これからも地域の皆さんの共感を得ながら、事業を続けていけるよう頑張っていきたいです。



地域功労賞

interview



伊予地区精神保健ボランティアグループ
重松賀代子さん＝出＝

「伊予地区精神保健ボランティアグループしおさい」を立ち上げたメンバーの一人。精神保健分野以外にも高齢者サロンの活動などに尽力している。

— 地域功労賞を受賞した感想は？

受賞の連絡を受けて驚きましたが、とてもうれしかったです。活動を長く続けることができたのは、しおさい会員の協力のおかげです。感謝しています。

— どのような活動をしていますか？

平成9年に「伊予地区精神保健ボランティアグループしおさい」を立ち上げ、精神障がい者の社会参加と自立が少しでも促されるよう心の交流を深めることを目標に、バーベキュー、クリスマス会、わくわく交流会の開催や事業所支援の活動を行ってきました。当事者の皆さんの笑顔を励みにして、地域の皆さんに精神障がいのある人たちのことを理解していただけるよう、地域への橋渡し役として活動を続けています。

— 今後の目標は？

今後も、精神障がいのある皆さんと心の交流をしながら、楽しく元気に活動を続けていきたいと思っています。

特集 誰かのために

享保の大飢饉のとき、後世に麦種を残すため自らの命を犠牲にして亡くなった「義農作兵衛」。

4月23日、義農作兵衛の遺徳をしのぶ「義農祭」と他者を思いやる心にあふれ、義農精神を体現する活動を行っている個人・団体の功績を表彰する「第2回松前町義農大賞表彰式」が開催されました。

この「義農祭」と「義農大賞」を通して、私たちにもできることはないか、考えてみませんか。



義農作兵衛の像



1_ 献花する田中町長（義農祭） 2_ 大盛況の餅まき（義農祭） 3_ 息の合った義農太鼓を披露（義農祭） 4_ 義農大賞を受賞した難波江さんが活動への思いを語る（義農大賞表彰式） 5_ 田中町長から地域功労賞を授与される重松さん（義農大賞表彰式）



広がる義農精神

「第2回松前町義農大賞」には、全国から140件もの応募があり、特定非営利活動法人eワーク愛媛が大賞を受賞。町内の個人・団体が対象の「地域功労賞」は、重松賀代子さんが受賞しました。審査委員長を務めたアグネス・チャン氏は、「これからも一生懸命活動して、義農精神を全国に、世界に広めていただきたい」と話していました。

「第2回松前町義農大賞」には、全国から140件もの応募があり、特定非営利活動法人eワーク愛媛が大賞を受賞。町内の個人・団体が対象の「地域功労賞」は、重松賀代子さんが受賞しました。審査委員長を務めたアグネス・チャン氏は、「これからも一生懸命活動して、義農精神を全国に、世界に広めていただきたい」と話していました。

享保17（1732）年に義農作兵衛が亡くなってから290年余り。義農作兵衛の時代と比べ、今の時代は、文明や技術が格段に進歩し、物は豊かに、生活も便利になりました。しかし、人と人とのつながりは希薄になり、価値観は大きく変わっています。そんな時代だからこそ、「自分のことより、人のために」という「利他」の心を持ち、人を思いやる義農精神をしつかりと受け継いでいくことが必要です。義農祭で田中町長は、「義農精神は『まちの未来を思いやる育みの心』。この精神を受け継ぎ、人もまちも豊かに育つよう全力で取り組みたい」と決意を述べました。

今こそ義農精神と向き合うとき

フードドライブの流れ



松前町社会福祉法人連協会の地域食堂「まさきっちゃん」で活用されることも

寄付できる食品

- 穀類（米、小麦粉、乾麺など）
- 保存食品（缶詰、瓶詰など）
- 乾物（のり、豆、海藻など）
- 菓子類・粉ミルク・離乳食
- 飲料（ジュース、コーヒー、お茶など）
- インスタント食品・レトルト食品
- 調味料各種・食用油（しょうゆ、みそ、砂糖など）

寄付する前に check

- ①～⑤を全て満たすものは寄付できます。
- ① 未開封のもの（包装が破損していないもの）
 - ② 賞味期限が明記され、期限が1カ月以上あるもの
 - ③ 常温保存可能なもの（冷凍・冷蔵・生鮮食品以外）
 - ④ 製造者または販売者表示のあるもの
 - ⑤ 成分またはアレルギー表示のあるもの
- ※ アルコール類（みりん・料理酒は除く）や手作りの品は対象外です。
- ※ 企業・団体からの寄付は、最寄りのフードバンク団体にお問合せを。

「もったいない」食品を「思いやり」のこもった食品に。誰かのためにできることから始めましょう。

品を買い過ぎないことが大切。買い物に行く前に、冷蔵庫などにある食品の消費期限や賞味期限をチェックして、何が必要なのかを確認しましょう。必要なときに必要な量だけ購入すると買い過ぎを防ぐことができます。

また、食べ残しを減らすために料理を作り過ぎないことも大切です。家族の予定や体調を把握して、1回の食事で食べられる量を意識して作りましょう。

どうしても食品が余ってしまった場合は、フードドライブにご協力を。町内では、エミフルM.A.S.A.K.Iの食品館とファミリーマート松前北川原店にフードドライブコーナー（寄付受け付けボックス）が設置されています。

余っている食品はありませんか？ フードドライブにご協力を

義農大賞を受賞した特定非営利活動法人eワーク愛媛が取り組んでいる「フードバンク活動」。

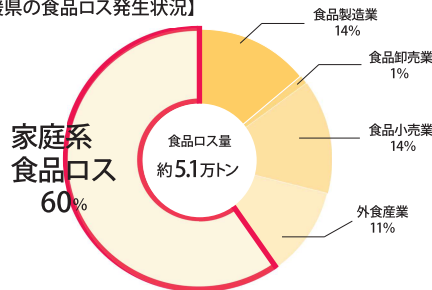
皆さんのおうちで食べきれない食品を有効活用することができます。

「もったいない」食品を「思いやり」のこもった食品に。

フードバンクとフードドライブについて紹介します。



【愛媛県の食品ロス発生状況】



※愛媛県食品ロス削減推進計画より作成

「もったいない」食品がたくさん「食品ロス」とは、まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。愛媛県が令和2年度に実施した食品ロス実態調査によると、県の食品廃棄物の年間発生量（推計）は、19.5万トン。そのうち、約26.4%に当たる約5.1万トンが食品ロスと推計されています。食品ロスのうち、約60%に当たる約3.1万トンが家庭系食品ロス、残りの約40%に当たる約2万トンが事業系食品ロスとなっています（上のグラフ参照）。

家庭で食品ロスが発生する原因は、食品の買い過ぎや長持ちしない保存方法による廃棄、作り過ぎや好き嫌いによる食べ残し、調理技術の不足などで食べられない部分を過剰に除去することによるものです。

食品ロスを減らすために

食べ物が不足して困っている貧困家庭があるにも関わらず食べ物無駄にしていることはもちろん、食品ロスにより、ごみの焼却時に発生する二酸化炭素による環境問題など、さまざまな問題が発生しています。食品ロスを減らすためには、食

フードバンク・フードドライブって？

フードバンクとは、食品を取り扱う企業などからまだ安全に食べられるのに捨てられてしまう食品を引き取り、福祉施設などへ無料で提供する団体や活動のこと。

フードドライブとは、家庭で余っている食品を持ち寄りフードバンク活動団体を通じて福祉施設などに寄付する活動のことです。